

第 131 回東葛しぜん観察会

鳥と植物のおいしい関係

遠藤 真弘（柏市）

日 時：2016 年 11 月 6 日（日）10～12 時 天候：晴れ

場 所：谷津ミュージアム（我孫子市）

参加者：大人 9 名、子ども 2 名、指導員 14 名

担当指導員：鈴木(俊)、鈴木(と)、遠藤(真)

気が付けばもう 11 月です。秋もすっかり深まりました。この日の観察会は寒さが心配だったのですが、幸運にも秋晴れの素晴らしい日でした。暖かい日差しの中でゆったりほっこりした観察会となりました。

観察コースは、東我孫子駅から 10 分ほど歩いたところにある谷津ミュージアムです。谷津ミュージアムは、かつて谷津田が広がっていた場所で、今では田んぼや自然の保全活動が行われています。博物館が建っているわけではありませんが、エリア内を歩いてまわると、それだけで豊かな自然が手軽に楽しめるのです。

今回のテーマは「鳥と植物のおいしい関係」です。3 班に分かれての観察となりましたが、私の班ではみんなが鳥の気持ちになって、何がおもしろそうかとか、何が食べやすそうか、甘そうか、硬そうか、などワイワイ話しながら、いろいろな木の実を見て回りました。「野鳥が好きな木の実」のトップ 3 は、カキ、ムクノキ、エノキなのだそうです。では確認してみましょうか、ということで ムクノキとエノキの黒い実をちょっと味見。ムクノキは干し柿のような味でとてもおいしかったのですが、エノキは時期が遅かったようで、硬くて食べられませんでした。そのほか、スズメウリ、ガマズミ、ムラサキシキブなどの実も味見。ちょっとグルメな観察会になりました。

鳥はおいしい木の実を食べますが、このときじつは、植物にとっても「おいしい」ことがあるのです。鳥に食べられた果実は遠くまで運ばれ、消化されてタネとなりフンと一緒にばらまかれるので、植物は勢力を広げることができます（これを被食散布といいます）。鳥にとっても植物にとっても「おいしい関係」になっているのです。

さて、鳥とは直接関係ないのですが、珍しいものを観察しました。エノキの木にヒラアシキバチがたくさん刺さっているのです。ヒラアシキバチのメスは、エノキに卵を産み付けるのですが、産卵管を木肌に突き刺して産卵を終えると、そのまま死んでしまうのです。

この日は、モズ、ヒヨドリ、ホオジロ、コサギなどの野鳥が見られましたが、水路のあたりでカワセミを見つけました。すぐに飛んで行ってしまいましたが、秋色の景色の中で、カワセミの青色がキラキラしてとても鮮やかでした。鳥も植物も両方楽しめてラッキーな一日でした。



ヒラアシキバチがエノキにたくさん死んでいる！